

令和6年 新飯田まつり

夜宮神事 6月14日(金)

1時30分 新飯田小全校児童による鼓笛演奏

夜8時 夜宮祝詞 (のりと) 奏上—夜10時までお宮を開けております—
商店街歩行者天国ではおまつり屋台出店
横町においてお楽しみステージを開催します

春季大祭 15日(土)

正午 小川連袂い・岩戸舞奉納—各町内を午後6時半まで巡行—

2時 行列奉仕者袂い

3時 大祭祝詞 (のりと) 奏上

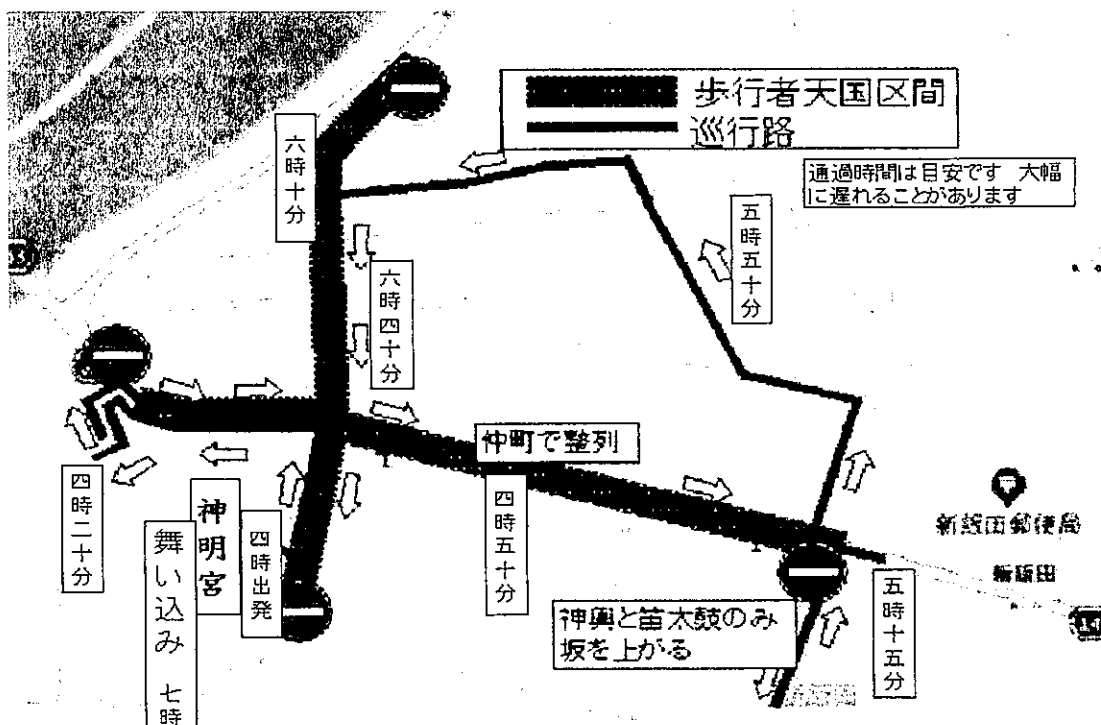
—各町内の安泰と氏子各位の家内安全、御巡行の安全をを祈願します—

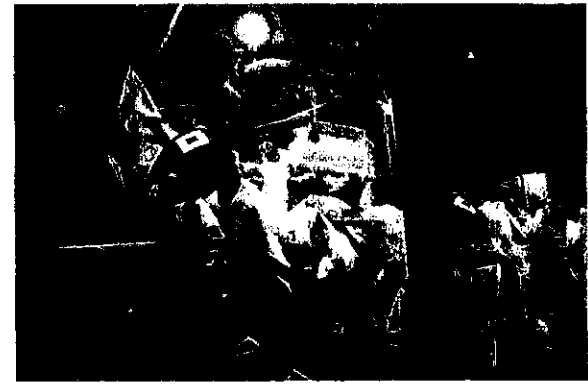
4時 行列出発 (町内を一巡、総勢120名)

—奴・稚児・天狗四神・御神輿・笛太鼓・神官総代の順で巡行—

7時頃 舞い込み (神輿遷納)

—祭の終了を阻止するため拝殿に入る御神輿を奴組が押し返す事を繰り返します祭の最後を飾る勇壮磊落な場面です—





新飯田祭り 大名行列

南区新飯田687(神明宮神社)

新飯田では、6月に春季例大祭が開催され、それに伴う大名行列が町内を練り歩きます。この大名行列は、嘉永年間(1850年頃)から伝承され、培われ、160年以上にわたって受け継がれてきました。

大名行列は、奴組、お供・稚児組、天狗・四神組、神輿組、笛・太鼓組、神官・総代と、総勢120人ほどで構成され、行進の途中で、奴は「しゃぐま」や「傘」を投げ渡し、天狗は子どもたちの頭を撫で、神輿は「勇壮あばれ神輿」と呼ばれるように町内を駆け回ります。

大名行列には地元の人はもちろん、県外で働いている人も帰ってきて参加し、また、各家庭では親戚・知人・友人を招待し親睦を深める場にもなっています。

圧巻は「舞い込み」です。多くの人々が見守る中、祭を終わらせたくないと願う一団が神輿が社殿にあがるのを阻止し、神輿組と何回もみ合います。また、笛太鼓組の演奏は、行列が発発してから神輿が納まるまでの4時間半、全く途絶えることはありません。



小川連中

南区新飯田無番地(小川連中会館)

毎年6月に行われる新飯田祭りでは、大名行列や神輿が町中を練り歩きます。その先頭に立ち、道中の悪魔祓いとしての神楽舞や小学生たちによる浜おけさなどの手踊りを披露しているのが小川連中です。

小川連中の歴史は古く、江戸時代後期に渋谷藤右工門が、現在の三条市井戸場地内の蛇尾(だお)という船の渡し場に着き、自ら唄い踊りをしていったものを、新飯田地区の特に中ノ口川の舟付場として栄えていた川前地域の多くの船頭衆が井戸場に習いに行き、伝承したと伝えられています。当時伝承を受けた川前の船頭衆は川前小路の「川」と「小」を取り合わせて「小川連中」と名付けた神楽衆を作り、正月や祝日に門付けを行っていましたが、嘉永年間より、現在の祭りのような形となりました。

現在は、大人の若衆が神楽舞や天狗踊りを、小学生などの子どもが6種類の手踊りを踊っています。

